

ニュースレター

4・25 ネットワーク

ホームページ <http://www.4-25.net/>

29号 平成19(2007)年4月11日

「桜って悲しいわねえ」。こんなひとことだけで思いが通じるのも、同じ事故の遺族・被害者なら
ではこのことでしょう。桜の花が大好きだった娘さんを奪われたご両親にとって、春はことのほか辛
い季節です。「あの日」までは、家族でここから楽しんだ4月の日々だったのに……。

卒業・進級できずに逝ってしまった若者に、「忘れていないよ」と、声をかけて「在学証書」を発
行された学校、また、亡くなった肉親の作品を遺稿集としてまとめた遺族もいます。そして、負傷
者の方々は、思いを綴った手記集を出版されました。

それぞれの春の思いとともに、事故後2年を迎えた私たち4・25ネットワークは、4月25日
の「追悼と安全のつどい2007」を節目に、これまでの思いを総括し、3年目に向けた方向性をは
っきりさせていきたいと思っています。

4月25日の午後1時～

追悼と安全のつどい2007にご参加を！

4月25日午後1時～5時、「追悼と安全のつどい
2007」の内容がほぼ確定しました。

「つどい」の内容を記載したチラシを同封しま
す。ご家族やお知り合いの方、多くの市民に呼び
かけてください(チラシをたくさん配布してくだ
さる方は、ご連絡ください。お送りします)。

第一部に、遺族・負傷者の声として、「JR 西日
本に言いたい 私のひとこと」は、皆さんからお
寄せいただいています。まだの方は、今からで
も電話・ファックス・メールなどでネットワーク
の事務局までお寄せください。番号・アドレスは
お送りする封筒の表にあります。

第二部では、2月の事故調・意見聴取会でも公
述された黒田^{くろだ いさお} 勲さん、弁護士で大学教授の郷原^{ごうはら}
信郎^{のぶお}さんに講演をお願いします。

場所は、尼崎のアルカイクホール・中ホール
「オクト」です。入場は無料(電話 06-6487-0810、
阪神尼崎駅下車5分)。

4月例会のご案内

2007年4月15日(日) 13時開場

13時15分開始 16時30分終了

場所「宝塚ソリオ2」4階

0797-86-4006 阪急宝塚駅すぐ

例会終了後に、弁護士・税理士・司法書士・
カウンセラーに個別の相談もできます。

小さなお子さんたちの保育室を設置し、ボラ
ンティアの方が例会中の保育を担当します。子
どもさんをお連れの方は、なるべく事前に事務
局までご連絡ください。

今後の予定

5月例会は5月20日、6月は17日、場所
はいつもの宝塚「ソリオ2」です。

分科会は

5月6日(日)13:00～「二次被害」

同日 15:00～「人事問題」

サンビオラー番館3F

宝塚国際・文化センター会議室

5月26日(土)13:00～「説明責任」

三田駅前キッピーモール6F

「思いを語る会」は

5月13日(日)12:30～ いたみホール

南谷・垣内両氏は

なんのための遺族担当重役なの？

4月4日、弥生会館にて、前回に引き続き、天
下り人事のことにつきJR西と交渉しました。ネ
ットワークからは19名が参加しました。

JR西の参加者は、南谷・垣内・丸尾・土屋・
中村各氏ら。7時過ぎから10時半まで話し合いま
したが、JR西のかたくなな態度は変わらず、前
回からの前進はなんらありませんでした。

南谷・垣内両氏を中心に、
事故の認識と責任について

現役員および天下りした元役員は、今後、事故
や遺族にどのように向き合っていくのか
という内容に絞って追及しました。

しかし、いずれもこれまでの説明の範囲をこえ
ない回答でしかなく、これに対して、組織の代表
の任にあった人間として、どのような思いなのか、
その責任とはどういうことなのか、そして遺族が
強く望むように退任役員と直接会って話を聞きた
いと要望しました。

その結果、

両氏とも、今回の事故を一生背負っていくこと。
崩壊した被害家族の立て直しは、自分たちの仕
事であること（応援や支援ではなく、責任である
ことを求めた結果）

退任した役員に関しては、自分たちが代表して
対応すること（従来と変わらず）

退任役員の出席を止めているのは、南谷元会長
であること。

そして、4～5月にかけて、南谷・垣内氏は、
106の家族を訪問し、家族や暮らしのたてなおし
に必要な条件を把握することを約束しました。

また、4月25日、「追悼慰霊式」に退任役員4
人を出席させて、遺族・負傷者との面会の可能性
を調整すること、などを求めましたが、このこと
については南谷元会長が預かりたい、との返答で
した。

以上が、要点ですが、なぜ南谷氏が、退任役員
の出席を止めているのか、に関しては、「すみませ
ん・もうしわけありません」を繰り返すのみで、
後輩を自分より先に退任させたことを（だから自

分が遺族・負傷者とは対応するというふうに）何
回となく言っていました。

今後、とりあえず、南谷・垣内氏との協議の場
をつくることを申し入れました。

考動館はなにをめざすのか

4月3日、吹田市のJR西日本研修施設の中に、
「鉄道安全考動館」が開設されました。一般には
公開しない、写真撮影もお断りという、閉鎖的な
環境で、これに対してはいろんなご意見も寄せら
れています。

以下は、一人の遺族からの投稿です。

... ..

3月31日(土)午後、考動館見学に行きました。
入り口で垣内取締役が、考動館設立の趣旨を説明
しました。その後、三浦運輸部長の説明で館内を
見学しました。考動館には福知山線列車事故研修
室と鉄道事故歴史研修室の2つの部屋があります。

まず福知山線列車事故研修室に入ると事故現場
写真が大きく何枚か張られていました。写真を見
て気づいたことがありました。事故車両で救出作
業に当たっていたのは、事故現場近くの工場で働
いていた人と救急隊と消防隊と警察官でした。J
Rの職員は、遠巻きに見ているだけでした。JR
の職員だけが黄色のヘルメットで、他の人が白い
ヘルメットだったので、写真を見るとそのことが
よく分かりました。

当時の新聞が掲示されており、その横に事故の
概要がまとめられていました。このなかに、置き
石説とそれを国交省に非難された記載はなく、私
は、事故の原因を踏切で自動車が電車と衝突した
から、とか、線路に置き石されたから、という発
表をしたことを明示せよと要求しました。事故原
因を他に押しつけようとした事実を忘れないため
にです。踏切事故の第1報、粉碎痕などの表示は
ありましたが、曖昧でした。

事故当時の代表取締役4人の内2人が、事故の
責任を取って辞任すると言いながら、こっそり関
連会社に天下りをし、遺族に説明責任も果たさず、
遺族を苦しめたことも明示せよと要求しました。

いろいろ要求をしましたが、その都度、社員は

メモをとっていましたが、ポーズだけのように感じました。

事故現場の20分の1の模型がありました。当日は、まわりを壁で囲み、希望者だけの見学になっていました。

最後に「企業理念・安全宣言」の説明がありました。説明後、橋本前大阪支社長が掲げた「稼ぐ」が第一目標になっていたポスターも一緒に掲示するように要求しました。JRの都合の良いものばかり展示しないように、事実をありのままに展示するように要求しました。

その後、鉄道事故歴史研修室を見学しました。

見学が終わり、事故原因が明らかになった後の展示を見たいと言いました。なぜなら、事故原因については触れられていないからです。

この施設は社員教育用で一般の人は見学できないそうです。事故調査委員会の最終報告書が公表された後の展示内容が重要だと思います。JR西日本に都合の良い展示で社員教育がなされては、第2、第3の事故を防ぐことはできません。事実に基づく展示が求められます。ぜひ、一般公開をさせなければならぬと感じました。

一般公開がなされれば、鉄道の安全について多くの方とともに考えることができると思います。

第6回 二次被害を考える分科会

4月1日(日)

当日は、「考動館」見学の感想と、退院した事故列車の車掌について、話題が集中しました。

【考動館について】

・「福知山線事故」の入り口のパネルを見て乗車位置探しでいろいろ動いたが、JRからマスコミに要請すればもっと早く容易に知りえたのではないか。情報があれば、こんなしんどい思いをしなくてもすんだのではないか。

JRの広報はマスコミ以上の現場写真を持っているだろうが、独自の事故原因調査と、保身のために、公開していないのではないかと思う。

事実、事故現場には加害者であるJRの保線区の者が、新聞社のカメラマンに混じって写真を取

り続けていた。

・「考動館」は、全く危機感のない場所、この場で危機感がなかったら何が伝わるのか。

綺麗なところに電車の模型を置いただけで、誰が怖さを感じるか、マスコミのほうがもっとリアルだ。

・社員研修施設ならかってに黙って作って、マスコミにも遺族にも公開しなければ良い。

「こんな施設作りました、社員に研修しています」などと言わずに、自社だけで勝手にやれば良い。

遺族、マスコミへの公開は、単に安全をやっているというアピールでしかない。

・社員研修施設とのことだから何も言わないが、一般公開するのであればあの場所、やり方で良いのか、いろいろな問題がある。

・見たいし見たら腹が立つ。文書を読ませてくれる時間もとってくれない。

・研修センターというなら何もできなかった社員の姿も載せるべきである。

パネルの大きな写真は、下の方に大勢のJRの保線区の社員が2両目の前の方で、ボーゼンと見ているときの写真。ちょうどJRの社員が写らないように切っただけ。

・「鉄道事故研修施設」の年表に「カーブの事故」が記載されていない。

・「福知山線列車脱線事故」と軽くさらっと記載されている。あの事故は「列車脱線転覆激突事故」だ。

事故の悲惨さが全然伝わってこない。

鉄道の安全に対して、果たして真剣にとりくんでいるのか、過去の事故から何を教訓とし、学んだのか、今後どのように教訓を生かしていくのか(生かしていないのか)、首をかきげたくなった。

【車掌について】

・JRの人間として事故の瞬間を知っている車掌が、ちゃんと話しをしてくれるのか？

・分科会ならマスコミも来ないが、来てもらって何を聞くか難しい。

【次回日程】5月6日(日)13:00~15:00

場所:宝塚国際文化センター 会議室1

学生たちの取り組みのかずかず

...24人の仲間を忘れない...

4・25 ネットワークの事務所に、次のような出版物・研究成果などが送られてきています。

いずれも、目を見張るようなすばらしい活動をされており、うれしいお便りです。

関西大学総合情報学部の一つのゼミで、犠牲になった女子学生の追悼の意をこめて、『JR事故4・25 学生視点からの記録資料』をまとめられました。

自治体・国交省・JRなどの企業やマスコミ報道などの膨大な資料・多岐にわたる事柄を、独自に整理された労作です。ユニークな資料集として活用させていただきそうです。

同志社大学文学部新聞学専攻の一つのゼミの方々は、『JR 福知山線脱線事故報道における人権とジャーナリズム』と題して共同研究の成果を262ページにわたる冊子にして完成されました。

大きな事件の中での報道と人権の問題に焦点をあてて、深く掘り下げた内容となっています。当然、4・25 ネットワークの会員も学生たちに取材を受けましたが、ゼミの学生たちの熱心な態度にうたれました。

UNN関西学生報道連盟の学生たちは、同じ大学生24人が命を落としたJR福知山線脱線事故に、当初から熱心に取り組んでこられました。

「24人もの学生たちが、私たちと同じ時間を大学で過ごしたことを、どうしても記録に留めておきたい」と、学生たちの遺族や知り合いの人からの手記を集めて、ホームページ上で公開しております。また、関西の各大学での追悼の行事なども報道されています。いちどHPを訪れてください。http://www.unn-news.com/mem_jr/

「思いを語る会」においでください

4月の思いを語る会は、会員のお宅におじゃまし、楽しく有意義な「おしゃべり」の時間でした。

3月は、女性弁護士を囲み話が盛り上がり、予定の時間では足りずに、閉会後に部屋を出たあとまでロビーで話し合う人たちも居たほどでした。

参加者の中に体調をくずした方もあり、お互いの健康を思いやりながら、親睦を深め合う楽しい会です。初めての方も気軽にのぞいてみてください(部屋代をワリカンでいただいております...200円程度)。

5月13日(日)12:30~

いたみホール 電話 072-778-8788

広済寺で追悼の法要がおこなわれます

4月24日(火)午後2時より、広済寺(尼崎市久々知1-3-27 電話06-6491-0815)にて、JR福知山事故の犠牲者追悼の法要がおこなわれます。同寺は事故現場から700mのところにある近松門左衛門の菩提寺でもあります。

その他、多数の行事については、同封しました「思いをつなぐ連絡会」のチラシをご覧ください。

白いリボン 同封しています

4月25日の「追悼慰霊式」やその日の事故現場など、報道関係者が集中することが予想されます。

これまでも取り組んできたように、マスコミに対して、「取材拒否、撮影お断り」の意思表示として白いリボンを胸につけていますので、ご協力ください、とお願いしています。白いリボン着用にもかかわらず写真を撮られた、などのときは抗議しましょう。